

令和5年度  
埼玉県職員仕事紹介  
オンラインセミナー

# デジタルで変わる未来の埼玉県

～埼玉県のデジタル化の現状と、DXに向けた取組のご紹介～

令和6年1月17日  
埼玉県  
企画財政部  
行政・デジタル改革課

はじめに

# 企画財政部とは

## 企画財政部

政策・財務  
局

行政・  
デジタル  
改革  
局

地域経営局

企画  
総務  
課

東京  
事務所

計画  
調整  
課

財政  
課

行政・  
デジタル  
改革  
課

情報  
シス  
テム  
戦略  
課

地域  
政策  
課

各地  
域振  
興セ  
ン  
ター

市町  
村課

土地  
水政  
策課

交通  
政策  
課

主に活躍してい  
る職種

一般行政／一般事務

主な業務

- 県の施策の総合的な企画立案
- 議会及び予算
- 行政改革の推進
- 情報通信技術の総合的企画
- 市町村や地域の振興
- 土地利用及び水利用に係る企画調整
- 交通体系の整備



# 行政・デジタル改革課

## 職場風景



## 主な業務

行政のデジタル化や社会全体のDXの推進  
県民ニーズを踏まえた事業の実施に必要な改革  
民間企業等との連携

## DX推進担当では…

庁内DXプロジェクトの統括  
DXのためのシステム・サービスの構築・導入  
デジタル技術を活かした業務効率化支援  
AIなど新技術の庁内ルール作り



デジタル技術を活かした  
**業務改革の  
旗振り役**



DXについて

DXとは？

DX

とは？

DXとは？

**D**  
**X** Digital  
Transformation

デジタルトランスフォーメーション = デジタルを駆使し、社会を変革させること

これからの社会課題への対応

新型ウイルス、大規模地震等の  
災害の頻発



複雑化

急激な人口減少・高齢化

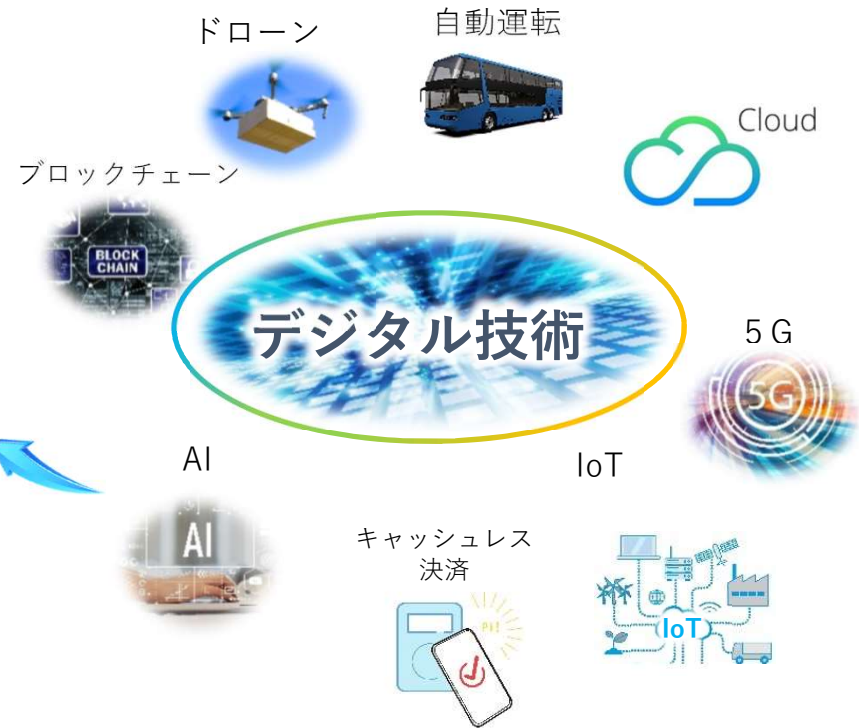


デジタル技術の進化による  
産業構造の変化等

デジタル技術  
+  
社会への浸透

社会課題の解決

デジタル技術・インフラの進展



複雑化する社会課題の解決にはデジタル技術が社会へ浸透し社会全体のDXが必要



新型コロナウイルスとDXの進展

「当たり前だった働き方」



対面前提の会議



紙を使った内部決裁



職場への出勤



新型コロナウイルスの発生

Turning



Point

「当たり前の働き方」を根底から見直す契機に

ステイホームによる非対面前提の  
コミュニケーションや業務の実施など  
県庁においてワークスタイルの再構築が進む

新型コロナ以前・以後で発生したワークスタイルのパラダイムシフト



# 埼玉県のデジタル化の取組

## DXへの3ステップ



第3ステップ  
DX

第2ステップ  
デジタルイゼーション

県民・事業者  
サービスの向上

第1ステップ  
デジタルイゼーション（アナログからデジタルへ）

DXの  
基礎固め

## DXへの3ステップ



第3ステップ  
DX

第2ステップ  
デジタルイゼーション

県民・事業者  
サービスの向上

第1ステップ  
デジタルイゼーション（アナログからデジタルへ）

DXの  
基礎固め



## 庁内業務のペーパーレス化

### 説明・会議・打合せのペーパーレス化

- 幹部への説明や会議・打合せ時の資料について、ペーパーレスを推進
- タブレット端末を用いたペーパーレス会議システム等での会議や、各職員がノートパソコンを持ち寄り、共有ファイルへアクセスして行う会議など、シーンに合わせて運用
- コロナ禍を期に、参加者全員がWEB会議で行う会議・打合せや、WEB会議と現場の両方で行うハイブリッドでの会議が盛んに。

#### Before



#### After



令和4年度  
リモート会議の活用率

**64** %

#### 導入による効果

資料準備時間の短縮

印刷コストの削減

テレワークの促進

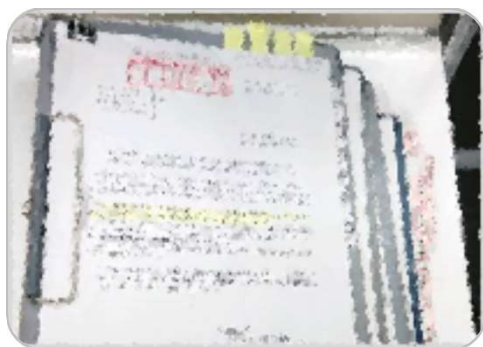
ペーパーレスにより効率化やコスト削減だけでなくテレワーク促進にも寄与

## 庁内業務のペーパーレス化

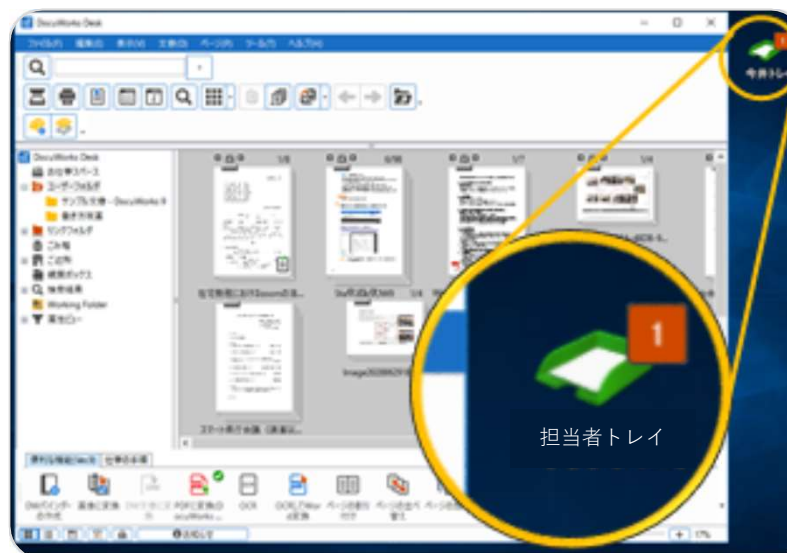
### 決裁のペーパーレス化

紙による決裁を完全ペーパーレス化するため、ペーパーレス化推進モデルとなっている所属において、紙の利便性をデジタルにおいても実現できるツールを導入。多数のファイルを一度に開くことができたり、チェックすべきポイントをマーカーするなど、決裁者の利便性を損ねずに紙以上の利便性を確保。

Before



After



モデル課取組の結果...

令和4年度  
コピー用紙使用量

**98.7** %  
(モデル課 R1年度比)

導入による効果

印刷コストの削減  
テレワークの促進

デジタルツールの活用によりほとんどの決裁のペーパーレス化を実現

## 庁内業務のペーパーレス化

### 決裁のペーパーレス化

- ・ 知事が旗を振って導入
- ・ 知事部局全体のコピー使用量 **59.7** %減  
(R4年度末 R1年度比実績)

### WEB会議での説明の様子



知事説明・幹部説明は  
完全ペーパーレス化

### 決裁のペーパーレス化を推進するメリット

#### 起案者の業務が効率化

- ・ 印刷が無いことで、スピーディーな修正・報告が可能
- ・ 付箋・インデックス・定型文の再利用ができることで作業が効率化する

#### 場所に囚われない

- ・ 決裁過程で紙を使わないことで、自宅、出張先から決裁が可能
  - ☞ テレワークを実施しやすくなる
  - ☞ 決裁完了までが短期化

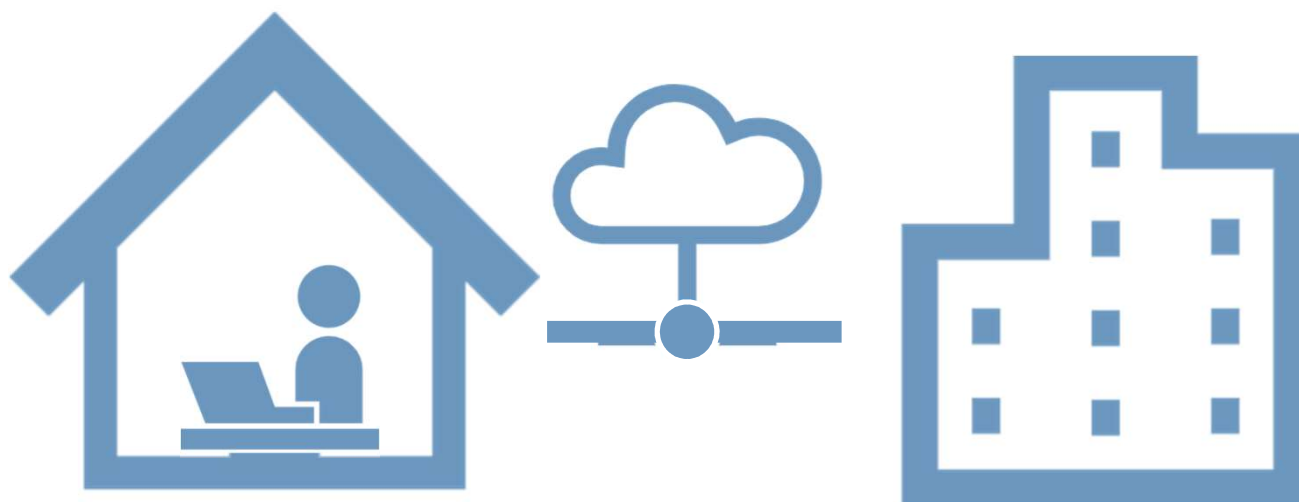
#### 資源の有効活用

- ・ 印刷が減る
  - ☞ コストの削減
- ・ 紙資料の保管場所が空く
  - ☞ オフィス空間の有効活用

これからの行政運営においては、庁内業務のペーパーレス化は必要不可欠

## テレワークの環境整備・推進

### テレワークのハード面での整備



自宅と職場をつなぐ様々なツールを導入

#### ハード面での整備

- ・ リモートデスクトップサービス
  - ・ WEBコミュニケーションツール
- など環境の整備

#### 導入による効果

- 資料準備時間の短縮
- 印刷コストの削減
- テレワークの促進

家でも職場でも好きな場所を選んで働ける「ハイブリッドワーク」の実現



## 執務室のフリーアドレス化・ワークラウンジの整備

※本庁舎地下1階に設置されたワークラウンジスペース

フリーアドレス化



※現在の行政・デジタル改革課執務室

複数の課で執務室のフリーアドレス化を実施  
毎日好きな座席で仕事ができる

カフェのようなリラックス感ある雰囲気  
職員が自由に使用できるワークスペース



集中して作業したり、  
雰囲気を変えて  
ミーティングする  
など細かなニーズに対応

ワークラウンジの整備

ペーパーレス化の推進とともに場所にとらわれない新しいワークスタイルを実現

## DXへの3ステップ



第3ステップ  
DX

第2ステップ  
デジタルイゼーション

県民・事業者  
サービスの向上

第1ステップ  
アナログからデジタルへ

DXの  
基礎固め

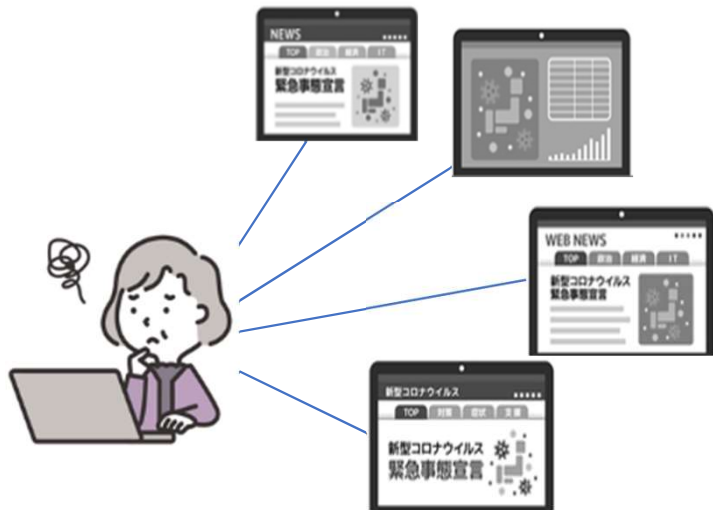
全庁GIS基盤整備による地理情報の有効活用

※令和5年度新規重点事業

### Before

課所ごとに地理情報が分散

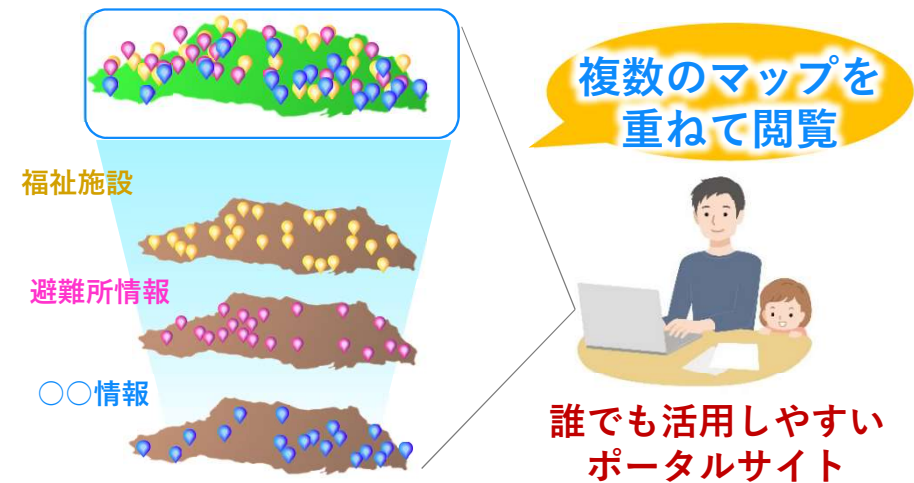
マップを探しにくく  
重ね合わせもできない



### After

全庁の地理情報を集約し、一元的に発信

マップを探しやすく、重ね合わせ等、  
データの有効活用ができるようになる



# 申請手続きのオンライン化

## ワンスオンリーの実現

※令和5年度新規重点事業

Before

申請のみ電子化し、事前相談や通知はアナログ  
申請の都度、同じ情報を毎回入力・提出する必要がある

After

申請の前工程から後工程までを全てオンライン完結させ、  
申請内容のデータベース化させる（ワンスオンリー化）

申請手続の全工程  
オンライン化

従来のオンライン化の範囲

①事前相談  
(チャットの活用)

②申請受付

③受付後処理  
(内容確認・通知)

オンライン申請  
(ワンスオンリーで申請が可能)



デジタル通知



バックオフィスでの  
データ連携



## ● 「ワンスオンリー」とは

何度か申請をする際、  
一度入力した情報を2度目の申請からは  
入れなくて済むようにする仕組み

## システム導入効果

### ●事前相談のオンライン化

- ・窓口に行かなくてもいつでも何度でも相談
- ・相談の記録が残り、情報共有が進む

### ●バックヤードのデータ連携

- ・データの共有により、関係部門の情報共有、  
ペーパーレス化が実現
- ・申請手続きのワンスオンリー化



## オープンデータの整備

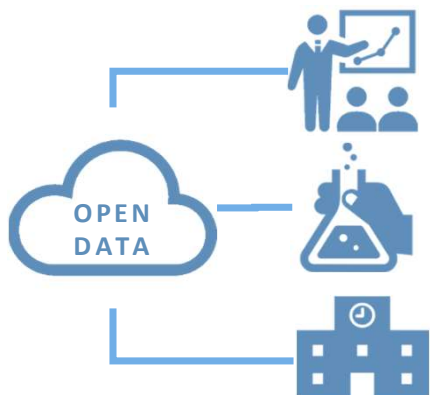


**オープンデータ**とは、行政や企業などが保有するデータのうち

- **誰もが無料で**利用可能
- **二次利用が自由**
- コンピュータが認識しやすい**機械判読性の高いデータ**

として一般に（特にインターネット上で）公開されているデータ

### 新たな価値の創出



誰もがアクセスしやすい形で公開し、企業や研究機関にとって活用しやすいデータを整備することで、学術研究に役立てたり、新たなサービスを作る助けになります

### 行政機関の透明化



オープンデータを積極的に公開することで、国や自治体の活動を分析できるようになります。これにより行政機関の取り組みの透明性を高め、行政機関に対する信頼性を向上させます。

積極的なオープンデータ公開による官民連携を目指す

## ノーコードツールの活用

### ノーコードツールの活用

※令和5年度新規重点事業

#### Before

- ・ 職員が自力でシステム開発をすることができず、デジタル化は委託等による他力本願となっている
- ・ デジタル化は「自分には無理」という先入観



### After ノーコードツールの導入

プログラミングの知識がなくても、業務改善アプリ（データベース）を簡単に作れる **ノーコードツール** をトライアルで導入


#### ノーコードツールでできること

- ・ 共同編集ができる
- ・ 登録したデータをリアルタイムで共有できる
- ・ ツールの中でコミュニケーションが取れる
- ・ グラフ化や集計などのデータ分析

#### 活用例：照会作業

**Before**

メールで回答様式を展開、  
回答をコピー&ペーストで集計



貼付ミス

提出漏れ

作業が煩雑



**After**

回答者が直接入力 → 集計作業が不要

直接入力  
(正確性向上)

即時共有  
(判断の迅速化)

データ分析・連携  
(業務の高度化)




自力で改善する成功体験を積み、優れたアプリやノウハウ、業務データを全庁に横展開

## 生成AIの業務への活用

### 生成AIの活用

※令和5年度新規重点事業

## 生成(generative)AIとは？



生成AIは、自動で新たなデータやコンテンツを創作するAI中でもテキストを生成するAIをLLM（大規模言語モデル）という。様々な業務改善が見込まれる



生成物の真偽や著作権、入力データの取り扱いなどリスクも存在



## 埼玉県の生成AI活用方針



### 3つの軸で生成AIを活用を推進

安全な環境で生成AIを使いながら、職員のスキルを高め、段階的に活用範囲を広げる

## 課題

- ・ 県庁内でデジタル人材が足りていない
- ・ 事務処理をデジタルで改善したいけれど、身近に聞ける人がいない
- ・ デジタルについて学びたいが、何から学ばよいかわからない



## DigiCafe

### 人脈づくりができる場

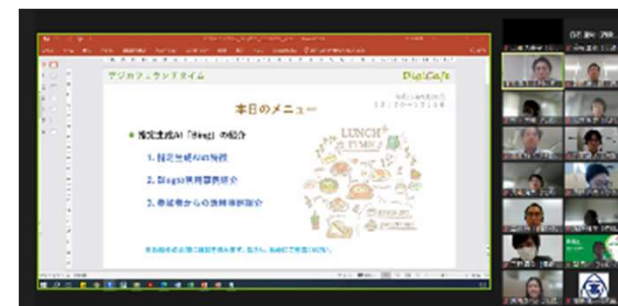
- ・ デジカフェチャットでの情報交換

### 新しい技術を学び共有する場

- ・ イベントの開催
  - ☞ デジカフェランチタイム勉強会
  - ☞ 都庁サテライトオフィス体験会

### 自己研鑽する場

- ・ デジカフェ勉強部屋  
(ITパスポートの過去問題配信)



ランチタイムミーティングの様子

職員のデジタルスキルを向上させ、個々の職員がDXを実現していく風土づくりを行っていく



## DXへの3ステップ



第3ステップ  
D X

第2ステップ  
デジタルイゼーション

県民・事業者  
サービスの向上

第1ステップ  
アナログからデジタルへ

DXの  
基礎固め

# 「埼玉県デジタルトランスフォーメーション推進計画」の策定

## 計画名称

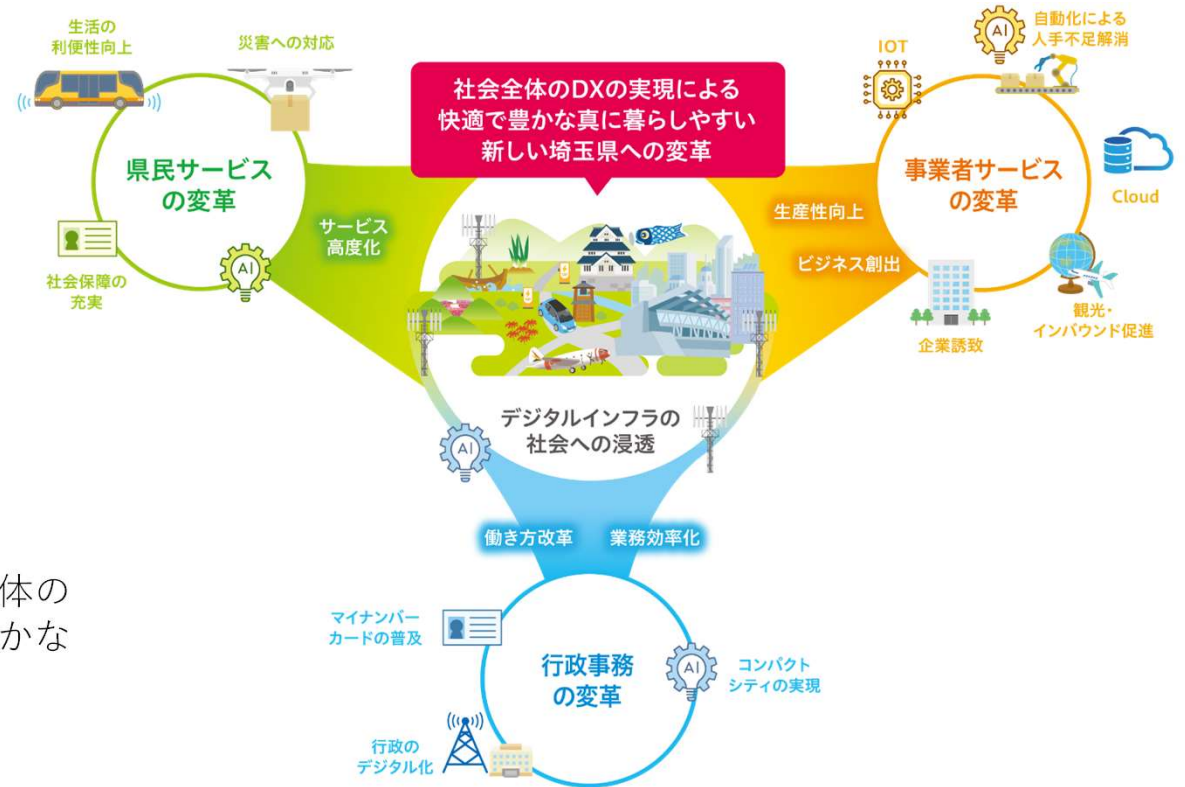
埼玉県デジタルトランスフォーメーション推進計画

## 計画期間

令和3年4月から令和6年3月末までの3年間

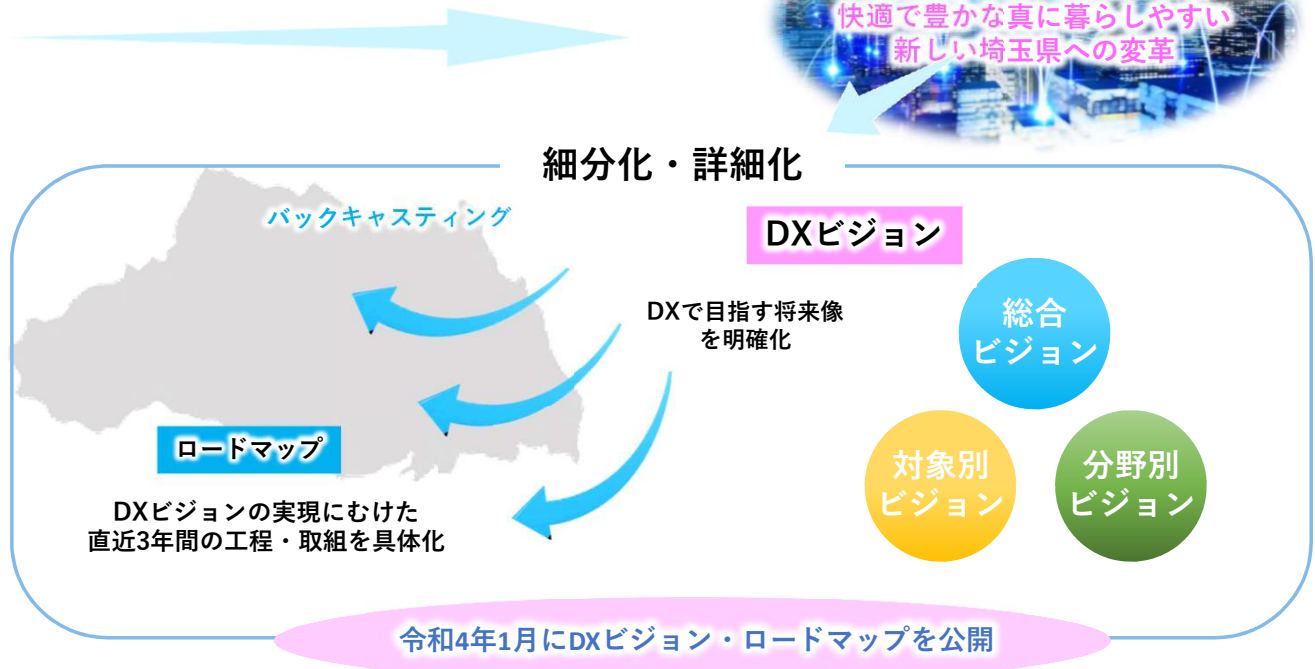
## 目的

埼玉県におけるデジタル化を強力に推進し、社会全体のデジタルトランスフォーメーションによる快適で豊かな真に暮らしやすい新しい埼玉県への变革を目指す



DXを推進する上での基本的な方針や取り組むべき施策を定める計画を策定

### 埼玉県DX推進計画 (方針・施策)



2021 → 2024 → ... → 2031

DXで目指す将来像を「DXビジョン」として設定するとともに、実現に向けた直近3年間の工程を「ロードマップ」として策定。令和4年1月に県ホームページで公開

DXビジョン・ロードマップ詳細 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0104/ai/dxvisionroadmap.html> ※埼玉県公式ホームページにリンク

ビジョン区分		ビジョン分類		
<b>総合ビジョン</b>	県全体で共通的に目指すビジョン	 <b>総合ビジョン</b>		
<b>対象別ビジョン</b>	サービスの受益主体である県民、事業者、行政の視点でのビジョン	 <b>県民サービスビジョン</b>	 <b>事業者サービスビジョン</b>	 <b>行政事務ビジョン</b>
<b>分野別ビジョン</b>	各分野毎の行政サービス・事業の視点でのビジョン	 <b>防災ビジョン</b>	 <b>環境ビジョン</b>	 <b>福祉ビジョン</b>
		 <b>保健医療ビジョン</b>	 <b>産業ビジョン</b>	 <b>農業・林業ビジョン</b>
		 <b>都市整備・建設・公共インフラビジョン</b>	 <b>教育ビジョン</b>	 <b>安心・安全ビジョン</b>

将来像を対象や分野等に分類し、13のビジョンに細分化・詳細化することで、目指す将来像を明確化



教育ビジョン (抜粋)

ロードマップ

(ビジョン実現に向けた直近3年間の取組・工程)

- 学校ICT環境の整備・充実
  - 児童生徒1人1台端末の整備
- 授業等のオンライン化
  - 日常的・継続的なICTの活用を通じたオンライン学習の推進
  - 海外の学校などとのオンライン・現地訪問を組み合わせたハイブリッド型国際交流
- ICTを活用した授業実践の研究
  - ICTを活用した学力学習状況調査の実施
  - ICTを活用した授業実践の研究
  - ICTを活用した「良い授業」の普及
- 新たな校務支援システムの導入検討
  - 新たな校務支援システムの導入・活用
- 新たな校務支援システムの検討
  - 〇県立学校におけるペーパーレス化推進
  - 教育情報の一元化による情報共有の効率化

授業のオンライン化を進め、新しい学びの環境を充実

バックキャストイング

教育情報の一元化によるエビデンス教育を実現

DXビジョン (目指すべき将来像)

デジタル技術の活用により、未来を切り開き、社会の担い手となる人材を育成する埼玉県への变革

ビジョン事例  
オンラインにより国境を越えたグローバルな協働的な学びができています。



ビジョン事例  
学習履歴、健康状況、家庭環境など児童生徒に関する教育情報が一元化され、情報共有が効率化されている。



豊かな人生を切り拓き  
持続可能な社会の担い手の育成

求められる能力

他者との協働する力 + 個々の良さ・能力


ビジョン事例  
生徒がオンライン学習等により必要な知識を学ぶことで、主体的に社会に関わることができている。



2021

2024

2031



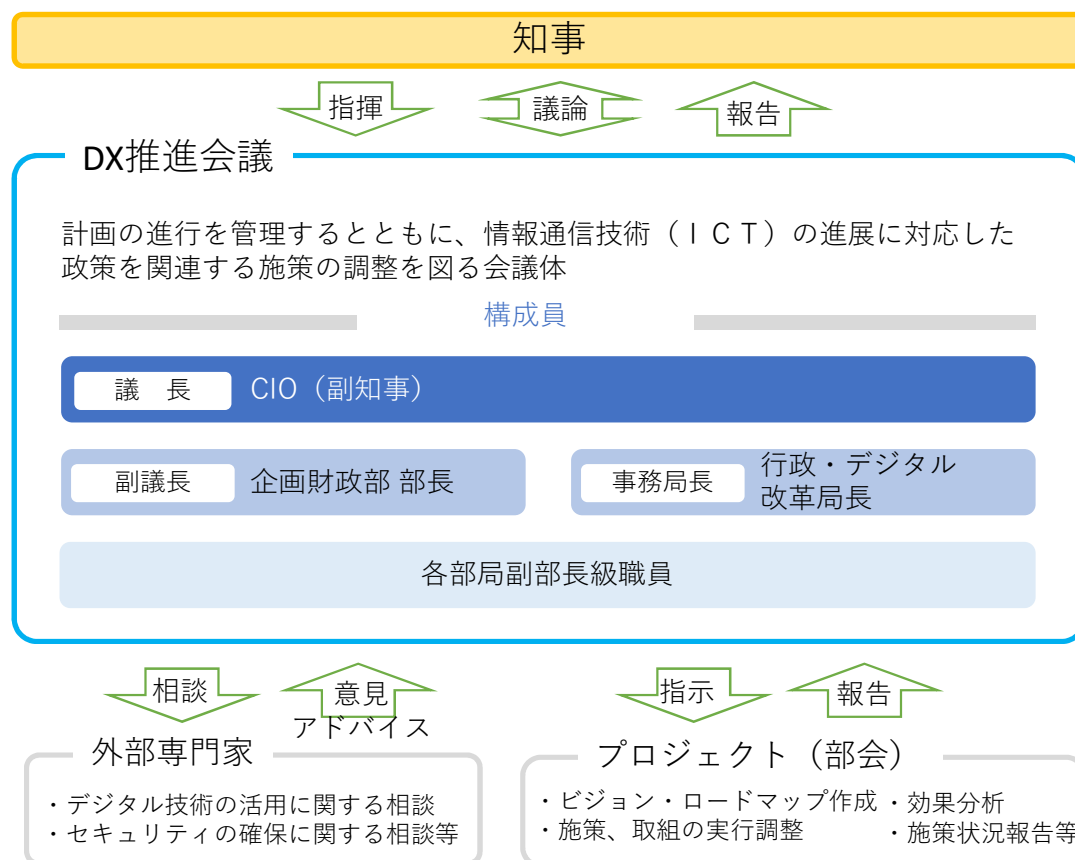
## DXの推進にあたってのポイント



## (1) トップダウンによる強力な計画の推進

知事自らが旗振り役となって職員の意識を高めるとともに、DX実現に向けた方向性を指示

## DX推進体制



## トップ自らのDX方針プレゼンテーション

令和5年4月に開催したDX推進会議において、DX推進に向けた実行方針等を知事自ら示すとともに、具体的な実行に際しての考え方についてプレゼンテーションを実施。



DX推進会議での知事プレゼンテーション風景  
(令和5年4月27日)

## 組織の横串を刺した連携と実行を図るため、組織横断型のDXプロジェクトによりDXを推進

### DXプロジェクト構成

令和3年度4月始動

#### DXプロジェクト

- プロジェクトマネージャー (PM)
- プロジェクトリーダー (PL)

#### 統括ユニット

- ユニットリーダー
- ユニットサブリーダー
- コアメンバー

#### 部局ユニット (16ユニット)

#### 企画財政ユニット

- ユニットリーダー
- ユニットサブリーダー
- コアメンバー

#### 総務ユニット

- ユニットリーダー
- ユニットサブリーダー
- コアメンバー

#### 県民生活ユニット

- ユニットリーダー
- ユニットサブリーダー
- コアメンバー

PM、PL、統括ユニットと16の部局ユニットとで構成。ビジョンの分類により関係ユニットが集まり組織横断的な検討を実施。

全所属からユニットメンバーとして  
令和5年度は442人が参画

### ユニットリーダー会議による連携

各ユニットリーダーを中心としたユニットリーダー会議を定期開催し、ユニットの検討状況や成果物を共有するとともに、進め方や課題等について意見交換やディスカッションを実施。

### 分野・テーマ別の個別会議

統括ユニット中心に、区分や分野に合わせて関係する部局ユニットが集まり、ビジョンやロードマップを検討。

### Zoom等を活用したプロジェクト全体での情報共有

プロジェクトの会議や打合せは、全てペーパーレスで行い、全庁のファイルサーバで共有。また、Zoomによりリーダーだけでなく、関係者が各会議や打合せに参加し、情報共有を効率的に実施。





DXで目指すべき将来像・ステップを誰もが共通認識できるようにビジョン・ロードマップを明確化し共有

ビジョンの明確化と共有により・・・

- 目的や向かうべき行き先（どこへ）が明確化される
- そこへ向かう動機（なぜ）が明確化される
- 具体的なイメージが共有され、共通認識できる

ロードマップ（工程・取組・KPI）の明確化と共有により・・・

- ビジョン実現に向けて、今やるべきことが明確化される
- 目に見える成果や目標により、モチベーションが維持される
- 実現に向けた課題が顕在化し早期に解決への対処ができる





おわりに





「D（デジタル）」ではなく 「X（トランスフォーム）」



埼玉県企画財政部行政・デジタル改革課

TEL 048-830-2121

E-mail a2440-13@pref.saitama.lg.jp